

東日本大震災 復興・支援活動ニュースレター

カトリック仙台司教区・カリタスベース

発行人：平賀徹夫
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

今回は、カリタス大船渡ベースに関する記事を2つご紹介します。はじめに、昨年12月、大船渡ベーススタッフが、大船渡教会とベースのクリスマスパーティーにおいて、全員でハンドベル演奏を披露しました。そこに至るまでの経緯などをご紹介します。次に、大船渡ベース開所5周年を祝う記念ミサと式典が、1月16日に行われました。地元の方をはじめ、全国各地からたくさんの方がお祝いにかけてくださった優しく温かな式典の様子をご紹介します。

最後に、今年3月11日の仙台教区平賀徹夫司教司式による追悼・復興祈願ミサについて、簡単にお知らせします。詳細が決まりましたら、改めてご案内させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

チームワークで奏でたハンドベル

カリタス大船渡ベース 大河内 愛

2016年10月のある日、大船渡ベースの事務室で「教会のクリスマスパーティーで何か出し物しませんか？」とあるスタッフが言った言葉をきっかけに、クリスマスに、大船渡ベーススタッフ全員で、ハンドベル演奏をすることになりました。まさか、スタッフ全員でこのようなことをしようとは、思ってもいませんでした。

あるスタッフの提案に、ベース長が「自分もそう思った。ハンドベルはどう？」とすぐに話が盛り上がりました。次のスタッフミーティングで具体的に話し合い、調理スタッフ2名を含む7名でハンドベル演奏をすることになりました。



大船渡教会クリスマスパーティーで初めて披露しました

ハンドベル演奏といっても、ベースには、ハンドベルも譜面台もありませんでした。そこで、ハンドベルは大船渡教会に隣接する海の星幼稚園から借りることになり、譜面台も近くの小学校からお借りできました。そして演奏する曲目も、「クリスマスおめでとう」と「大きな古時計」の2曲に決まりました。

まず最初に「クリスマスおめでとう」を練習しました。音符をカタカナ表記し、各音の数を数え、音の数の多さで担当を振り分けました。

実際の練習は、10月26日から始まり、ほぼ毎日、お昼休みにハンドベルの練習をしました。初日は、メロディーがわかるようなわからないような感じとなったため、スタッフが1人、手拍子で拍子をとって練習を試みましたが、手拍子の人はベルを鳴らせないため、かえってメロディーがわかりにくくなってしまいました。そこで、翌日からはメトロノームを使うことにしました。拍子が安定すると、だいぶメロディーがはっきりしました。

11月2週目には、1曲目がほぼ出来上がりました。ただスタッフ全員が揃うことがなく、曲の全体像はまだわかりませんでした。2曲目の「大きな古時計」は、「クリスマスおめでとう」の曲に比べ、音符が多かったですが、2曲目のせい、皆、慣れて上達が早かったです。

今回のハンドベル演奏は、ベーススタッフからのサプライズ、クリスマスプレゼントだったことから、周囲の方々に知られないように練習すること、練習する時間がお昼休みしかなかったため、練習時間を確保することが、とても大変でした。

午後から活動がある時は、早めに練習を切り上げ、特にベースイベントがある時には、地域の方々が予定より早い時間にお集まりになることもあったため、ハンドベル演奏を知られないように、急いで練習

を中止し、片付けることもありました。限られた時間の中で、スタッフは、昼食を急いでとったり、調理スタッフは、後片付けを大急ぎで済ませるなど、少しでも多く練習時間を作るように心がけました。

12月23日、お休みのスタッフのハンドベルをボランティアさんに担当してもらい、初めて全部の音を揃えて演奏することができました。全部の音が揃うと、曲に厚みができ、いつもの欠けた音とは全く違う豊かな音色となりました。そして、12月24日の午後、初めて、スタッフ全員が揃ってのリハーサルが実現しました。

その6時間後、大船渡教会のクリスマスパーティーで本番を迎えました。ミサとパーティーは前年まで幼稚園ホールで行われましたが、今年は初めて教会で行われました。観客の皆さんのすぐそばでの演奏で緊張してしまい、拍子が合わなくなってしまうこともありましたが、なんとか終わることができました。

翌25日、ベースのクリスマス会では、落ち着いて演奏できました。クリスマス会が終わった後に遅れて来た方のために、もう一度演奏しました。「今日は、本当に心が洗われた」と涙ぐんでおられました。

今回、ハンドベル演奏は、ベーススタッフそのものだと思います。1拍のうち、早く入ってしまう人もいれば、出遅れる人がいたり、それをカバーするようにきっちり安定した拍子で演奏する人もいて、お互いに助け合って1つの曲が生まれました。

スタッフも同様で、異なる音のように様々な個性の集まりです。豊かなハーモニーとなるよう互いにフォローしあい、持ち味を生かしながら、これからも調和して活動に励んでいきたいと思えます。



ベースでのクリスマス会では、ビブスを着てハンドベル演奏♪

カリタス大船渡ベース 開所5周年

仙台教区サポートセンター 濱山 麻子

2017年1月16日、岩手県のカリタス大船渡ベースで開所5周年を祝う式典が行われました。大船渡ベースは、カトリック大阪大司教区の支援により、震災の翌年2012年の1月14日に開所。以来、全国からの1,600人以上のボランティアと共に、地域の方々に寄り添う活動を続けてきました。

式典に先立ってカトリック大船渡教会で、仙台教区平賀徹夫司教主司式、京都教区大塚喜直司教はじめ、10人の司祭の共同司式で、荘厳に記念ミサが行われました。

大塚司教様は説教で「新しいぶどう酒を古い革袋に入れたりはいらない。そんなことをすれば、ぶどう酒は革袋を破り、ぶどう酒も革袋もだめになる。新しいぶどう酒は、新しい革袋に入れるものだ」というその日の福音にふれ、「大震災という辛く悲しいできごとを経て、この大船渡教会には新たな信徒が増え、昨年は聖堂の改修も行われた。未来の子どもたちのために、新しい教会としてこれからも進んでいけるように」と話されました。

ミサの後、ベースに移動し式典が始まりました。まずは集まった全員で記念撮影。あまりに人数が多く、2度に分けて、それでもひな壇に上った人は隣の人の腕にしがみつきの撮影となりました。



震災後、大船渡でご尽力いただいた懐かしい方々も参加されていました

平賀司教様からの祝辞では、発災直後から支援にあたってくださった方々への御礼が述べられ、「ベースの働きで、被災された方々に少しでも元気になっていただけるように」と話されました。また、大阪教区事務局長の松村繁雄神父様は、「5年前の開所の際にもベースを訪れ、その頃は新しい木のおいがしていたが、今は人のにおいに変わってきた。建物のあちこちに傷や汚れがついているが、それはこのベースが地域の方々の悲しみや苦しみを吸収している証」と話されました。

鏡開きと乾杯の後、ベースのそばで美容室を営んでいる女性と、地元の若者による日本舞踊の披露があり、最後にはボランティアやベーススタッフも駆り出されて踊り、にぎやかなひと時。また、大船渡教会信徒の金野幸恵さんによる詩の朗詠と気仙語の祈りは深く心に沁みるもので、そっと目頭を押さえている方の姿がありました。



司教様と菅原ベース長による鏡開き

ベース内にはこれまでのスタッフの集合写真や活動中のスナップが展示され、この日にいたるまでの歩みが紹介されていました。ニーズに合わせて、漁業支援、地域のイベントのお手伝い、外国人支援など、幅広い活動を続けてきたこと、歴代のスタッフがつないできた活動により、今のベースの形ができあがっていることを改めて感じました。

パーティーの最後は、大船渡ベーススタッフによるハンドベルの演奏でした。クリスマスのために練習していたということで、少し遅い「クリスマスおめでとう」と「大きな古時計」が演奏され、年齢も出身地も違うスタッフが一つにまとまって奏でる音楽は、とても優しく温かく感じられました。

式典には、地域の方々、日頃関わっている支援団体の方、近隣のカリタスペーススタッフに報道陣などなど、なんとおよそ100人の参加で、開所以来最も多い来客数だったそうです。あちこちで再会を喜ぶ声が続いていました。

菅原圭一ベース長は挨拶の中で「多くのボランティアさんが来てくださり、また大船渡に行きたいけれどもなかなか行けない、と手紙を添えて物資や献金を送ってくださる方もいらっしゃいます。遠くについて祈ってくださる方々の思いを、大船渡の皆さんに目に見える形で支援するのが私たちの役割です。支援の形は変わってきていますが、これからも地域の皆さんに寄り添っていきたい」と力強く話し、決意を新たにしていました。

これからも、たくさんの方々をつなぎ、皆さんに愛される温かい場所でありたいように。



《3月11日 ミサのお知らせ》

毎年3月11日、仙台教区 平賀徹夫司教は、被災地の教会・ベースで、追悼と復興の祈りを捧げています。
東日本大震災から丸6年となる今年の3月11日(土)は、宮城県仙台市のカトリック元寺小路教会(カテドラル)にて、東日本大震災犠牲者追悼と復興祈願のミサを行う予定です。
今年は3月11日が土曜日のため、遠方の方も比較的参加しやすいのではないのでしょうか。仙台教区内外問わず、遠方からもたくさんの方がミサにご参列くださり、被災地へも足を運んでくださることを願っております。
詳細につきましては、現在、検討・調整中ですので、決定しましたら、HPやニュースレターなどで、改めてお知らせいたします。
どうぞよろしくお願いいたします。

3.11 東日本大震災犠牲者追悼・復興祈願ミサ

日時：2017年3月11日(土) 14:30～

*午後2時46分、全員で黙祷

場所：カトリック元寺小路教会 大聖堂

司式：平賀徹夫司教

熊本地震支援金、東日本大震災に対する募金の受付は、現在も、引き続き行っております。

今後とも、多くの皆さまのご支援・ご協力をいただけますよう、何卒よろしくお願いいたします。

ニュースレターのメール配信をご希望の方は、お名前などをご記入の上、sdskoho@gmail.comまでメールをお送りください。次号よりお送りさせていただきます。多くの方に活動状況や被災地の現状を広めていただけますようお願いいたします。